

2015年3月29日 礼拝メッセージ

聖書：ルカの福音書 22 章 35～46 節

説教：祈っていなさい

### 1 なぜ剣を持つのか

かつてイエスは弟子たちを派遣するとき、財布も旅行袋もくつも持たないようにと注意を与えました。普通ならすぐに困ってしまうはずなのに、弟子たちは旅行中何も足りないものはなかった、と証言しています。これを真似して、クリスチャンは旅行のときは何も持つべきではない、と考える人はいません。弟子たちは、悪霊を追い出し病気をいやす権威と力をイエスから与えられて送り出されるという特別な状態にありました。ですから、神が必要のすべて一切を満たしてくださったと考えて良いでしょう。

ところがいま、イエスはこう言われるのです。36節。「しかし、今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物売って剣を買いなさい。」

以前とは逆さまです。どうしてわざわざ着物を売ってまでして剣を持つ必要があるのか。イエスは理由を説明しません。おそらく弟子たちはこう思ったはずです。イエスは自分たちにイスラエルの十二の部族をさばく権威を与えるとはっきり約束してくださった。「さあ、いよいよこれからローマ軍と戦い、イスラエル革命を起こすときが来た。そのために剣を買いなさいと言われたのだ。」もちろんそれは大きな誤解だったのですが、ではどうしてこのところでは剣を買いなさいと言うのか。この問題は少し脇に置いて、オリーブ山でイエスが祈られる場面を見てから、もう一度考えたいと思います。

### 2 イエスと弟子たち

#### 1) 眠り込んだ弟子たち

祭司長たちはイエスを殺そうとしてイエスを狙っています。でも、群衆がいる間は手出しができません。そんなことをすれば大騒ぎになります。ですからずっとひとりぼっちになるすきをうかがっていました。そんなとき、イエスはエルサレムの町を出てオリーブ山に向かわれます。昼間は常に人々が周りに集まり、ひとりになることはありません。でも一旦エルサレムから外に出してしまうと弟子たち以外には周りにだれもいませんから、祭司長たちに絶好のチャンスを与えることになります。イエスもちろんそのことをご存じです。なぜそうするのか。ゆっくり休みたかったからではありません。十字架に向かうためです。祭司長たちがイエス殺害計画を成し遂げることができるようにと、わざわざオリーブ山に向かわれたのです。

そしてよくご存じのゲッセマネの祈りの場面が始まります。ほかの福音書によれば、その祈りに同行したのはペテロとヤコブとヨハネの三人だけだったようです。その彼らにイエスは、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われます。でも、このあとどうなったか。イエスが祈りから戻って来ると、「悲しみの果てに、眠り込んでいた」とあります。イエスはあきれたように、「なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていなさい」と、もう一度同じことばをお語りになります。

皆さんここを読んで不思議に思わないで

しょうか。どうして弟子たちは眠ってしまうのか。疲れていたからでしょうか。それとも不信仰で怠け者だったということでしょうか。聖書には、「悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた」とあります。「悲しみの果てに」とはどういうことでしょうか。

## 2) 断ち切られていくイエス

イエスと弟子たちの間には、石を投げて届くほどの距離がありました。日が暮れて辺りは暗くなっていたでしょうから、祈っているイエスの姿はよく見えません。44 節に「イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた」とあります。姿はほとんど見えなかったかもしれないませんが、闇の向こう側からなにかが聞こえてきました。イエスのうめき声、叫び声。ただならぬ気配です。心配でそばに駆け寄りたい。でも命令があるので動けません。ただ座って聞いているしかありません。

イエスはこのように祈ります。「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

そもそもイエスは十字架に向かうために、私たちの所へ来られたはずです。それがどうしてこの期に及んで、こんな祈りをするのでしょうか。戦争に駆り出された兵士が、敵を目の前にして恐くなり逃げ出すことがあるのだそうです。イエスも急に恐くなったのか。もしそんなことだというのなら、イエスにとって都合の悪い事実です。聖書に載せる訳がありません。それがどうとうと載っているのですから、何か別の理由があります。

ヒントは 37 節です。「『彼は罪人たちの中に数えられた』と書いてあることが、私に必

ず実現するのです。わたしに関わることは実現します。」

罪のない、神のひとり子が罪人たちの中に数えられる。それがどれほど悲慘なことか、私たちはわかっていたのでしょうか。罪人と数えられたとき、何か起きるのですか。罪がさばかれます。どんなさばきですか。十字架につるされ、苦しみの中で死ぬということですか。もちろんそれもあります。イエスが恐れたことは、もっと深いところにあります。申命記に、「木につるされる者は神にのろわれた者である」とあります。いつぼう詩篇 37 篇には「主にのろわれた者は断ち切られる」ともあります。では、十字架につるされ、のろわれた者となられたイエスは、何から断ち切られることになるのでしょうか。イエスが最も恐れたことはそれです。

難しいことはありません。私たちが最も恐れていることと同じです。私たちは、どんなときに泣き叫びますか。愛する家族が亡くなったときではないですか。死んだらもう終わりです。もう会えないのです。だから普段からそんなことが起きないようにと恐れながら暮らしています。

イエスも同じです。イエスが最も愛する方は誰ですか。父なる神です。父と子の関係は、ヨルダン川で洗礼を受けられたときに象徴的に表されています。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」天からそのように語る父なる神の声がしました。その父なる神から断ち切られていく。私たちは簡単に「さばき」と言っていますが、愛する者から断ち切られることを指しています。それはどれくらい苦しいことでしょうか。

## 3) 悲しみの果てに

愛する家族が重い病気で死んでいくということが人生の中で起こります。私たちは、そのベッドの傍らでなにをしますか。誰だつて「死なないで」と叫ぶでしょう。愛する者が死の向こう側に連れて行かれる。断ち切られていくことは耐え難い苦しみに感じられるからです。

イエスがしていることはそれと似ているように思います。静かに祈っていたわけではありません。愛する方から断ち切られることを思う時、あまりの悲しさから苦しみもだえ、血のような汗を流しました。うめき、叫びました。

その叫び声が弟子たちの耳にも聞こえてきます。その声を聞いて平気でいられる人がいるでしょうか。

以前、ある方のお見舞いに病院に行ったときのことで。どこかの病室から泣き叫ぶ声が聞こえてきました。自分の家族のことではないのですが、それを聞いてつらい思いがしたのを忘れることはできません。まして、ここでは神が叫んでいるのです。今まで聞いたことのない悲しみの叫びです。心の深いところが何か突き刺さり、弟子たちも悲しくなり泣いたでしょう。そして、まるで子どもが泣き疲れて寝込んでしまうように、弟子たちも悲しみの果てに眠ってしまいました。

### 3 誘惑に陥らないように祈っていなさい

「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われたのに、弟子たちは祈ることもできず、寝てしまいました。ではいったい誰が祈っていたのでしょうか。イエスが祈っています。そうしますと、このことば弟子たちに向けて語ったことばですが、イエスご自身にも関係があるのではないですか。「この杯をわ

たしから取りのけてください。」父なる神から断ち切られることが耐え難いので、十字架のさばきを中止してください。そう祈っているのと同じです。私たちは、イエスがこんなふうに祈るのは無理もないことだと納得します。けれどもイエスは言うのです。「わたしは大きな誘惑にあい、十字架を中止してくださいという祈りをしてしまいました。」十字架を止める。それはみこころに反する祈りです。イエスは、私たちの前で弱くなられたお姿を示していたのです。それほど十字架がイエスにとってつらいものであったのです。

さてここで最初の問題に戻ります。なぜイエスは剣を買いなさいと言われたのか。かつてイエスから、悪霊を追い出し、病をいやすの権威を与えられて送り出されたときは、剣は必要ありませんでした。しかし、いま剣が必要になりました。ローマ軍と戦うためではありません。では何のための剣でしょう。

イエスはゲッセマネで「この杯を取りのけてください」と祈らざるを得ないほど強い誘惑を受けました。その誘惑に打ち勝つためにはどうしたら良いですか。祈りなさい。確かにそうです。けれどもイエスの場合、非常に具体的です。後から気が変わって、誘惑に陥り十字架を取りのけてくださいと祈ったとしても、あらかじめ取り返しができないようにと、仕掛けをしておくのです。どんな仕掛けか。弟子たちは、イエスのために働いていると確信していました。しかしイエスが逮捕され裁判にかけられたとき、弟子たちは逃げ出します。彼らは何をしていたのか。ちょっと前まで剣を誇らしげに振り回していたのです。その剣を用意させたのはイエス。

では、剣はどんな役目を果たしたのか。イエスはまるでこう語りかけているようです。

「あなたの手にしている剣、それは何を示していますか。あなたが剣に手をかけるとき、あなたはわたしイエスを信じる信仰ではなく、力を信じていきます。力を信じた結果、その剣はこのわたしを十字架に追いやることになります。剣はあなたにとって誘惑となります。そしてあなたは大きな誘惑にあい、結局わたしを見捨てていくでしょう。でもわたしは、誘惑にあつてわたしを見捨てていくあなたがたのためにあらかじめ祈りました。」

誘惑にあっていることさえわからない私たちです。けれども、まず先に主が誘惑にあつて苦しめました。そして、誘惑に陥る私たちのために、主は血のような汗と涙を流しながら祈ってくださっていました。

主の御名をさがめます。